

資料

京都府南部の市街地内（京都大学・宇治キャンパス）で
確認されたフクロウ *Strix uralensis* の記録

久野 真純*

Urban sighting of the Ural owl *Strix uralensis* on the Uji Campus of Kyoto University,
Kyoto, western Japan

Masumi HISANO*

和文要旨

2023年8月21日の夜間、京都府南部の市街地に位置する京都大学・宇治キャンパス（京都府宇治市）構内において森林性の大型鳥類フクロウ *Strix uralensis*（京都府の準絶滅危惧種）が観察された。これまでの宇治キャンパス構内における鳥類相報告ではフクロウの記録はなく、本報告は既存の目録に重要な1種を加えるものである。

キーワード：観察報告、鳥類、都市生息地、都市緑地、野生生物

英文要旨

At midnight on August 21, 2023, the Ural owl (*Strix uralensis*: Strigiformes, Strigidae), a large predatory bird species, was observed on the Uji Campus of Kyoto University, located in the urban area of southern Kyoto Prefecture, western Japan. The Ural owl is a forest-dwelling species and is categorized as a Near-Threatened Species in the Red List of Kyoto Prefecture. There are no previous records of owls in the bird assemblages reported within the Uji Campus of the university. The present report adds an important species to the previous survey results.

Key words: avifauna, bird, urban greenspace, urban habitat, wildlife

1. はじめに

フクロウ *Strix uralensis* はフクロウ目フクロウ科に属する夜行性の留鳥で、日本では森林や農耕地に年間を通して生息している（叶内ら、2008）。京都府では府内全域に生息しているものの（日本野鳥の会京都支部、2023）、農耕地と営巣木のある社寺林などが分断されることにより近年個体数が減少傾向にある（京都府環境部自然環境保全課、2015）。そのため、京都府のレッドデータブックにおいて「準絶滅危惧種」に指定されている（京都府環境部自然環境保全課、2015, 2021）。京都府内における本種の観察記録情報を蓄積することは、その分布状況を把握するうえで重要である。

府内の京都大学敷地ではこれまで本部試験地（現在の北白川試験地、京都市：二村、1993, 1994）、上賀茂試験地（京都市：二村、1991）、芦生演習林（現在の芦生研究林、南丹市：二村、1989；渡辺・二村、1971）、および宇

治キャンパス（宇治市：二村、1997）において鳥類相が調べられてきた。宇治キャンパスでは1996年から1997年にかけて26科48種の鳥類が確認されたが（二村、1997）、当時の報告にフクロウ類の記録はない。2023年8月、筆者は宇治キャンパス構内においてフクロウを観察したため報告する。

2. 方法

2.1. 観察個体数

フクロウ1羽。

2.2. 観察日時

2023年8月21日、午前0時35分–46分。

2.3. 観察場所

京都大学・宇治キャンパス構内（京都府宇治市五ヶ庄）、

* 京都大学大学院情報学研究所 〒606-8501 京都府京都市左京区吉田本町

* Graduate School of Informatics, Kyoto University, Yoshida-honmachi, Sakyo, Kyoto, 606-8501, Japan
E-mail: hisano.masumi.2h@kyoto-u.ac.jp

南東部に位置する5階建て建造物 (34°54'29"N, 135°48'11"E; 図1).

2.4. 周辺環境

京都大学・宇治キャンパスは周囲を市街地に囲まれた面積 215 km² の敷地を有する (図1). 敷地内にはソメイヨシノ *Prunus × yedoensis* をはじめとする落葉広葉樹の街路樹や、アラカシ *Quercus glauca*, クスノキ *Cinnamomum camphora* といった常緑広葉樹が生育する. 敷地の北部および西部は防衛省陸上自衛隊・宇治駐屯地が隣接する. 観察場所から西へ約 800 m 先には宇治川が流れ, 住宅地を越えたさらに西へ約 1.5 km 先には巨椋干拓地の水田地帯が広がる (図1b). 一方, 観察場所から住宅地を越えた東へ約 1.5 km 先には, 高峰山 (標高 298 m), 五雲峰 (342 m), 長坂峠 (285 m) などが連なる丘陵地帯がある (図1b).

2.5. 観察距離と方法

25 m の距離から 10 倍の双眼鏡 (Vixen New APEX HR 10×28) で観察した.

2.6. 観察した行動

建造物屋上のアンテナにパーチ (鳥が高所に止まること) しながら (図 2a, b), 「ゴウホウ, ゴホッホ・ゴウホウ」と鳴いていた. これをひとまとまりの鳴き声と定義すると, 20~30 秒置きにこのひとまとまりの鳴き声が聞かれた (註 1 および 2). 10 分ほど続けて鳴いた後, 止まっていた建造物から北の方角へ飛び去った (図 2c; 註 3). その後再確認することはできなかった.

2.7. 種を同定した根拠

観察場所は暗く, 個体の色彩や模様は確認できなかったものの, 本個体の大きさ, および形状 (シルエット), さらに本種に特有な上記の鳴き声からフクロウであると

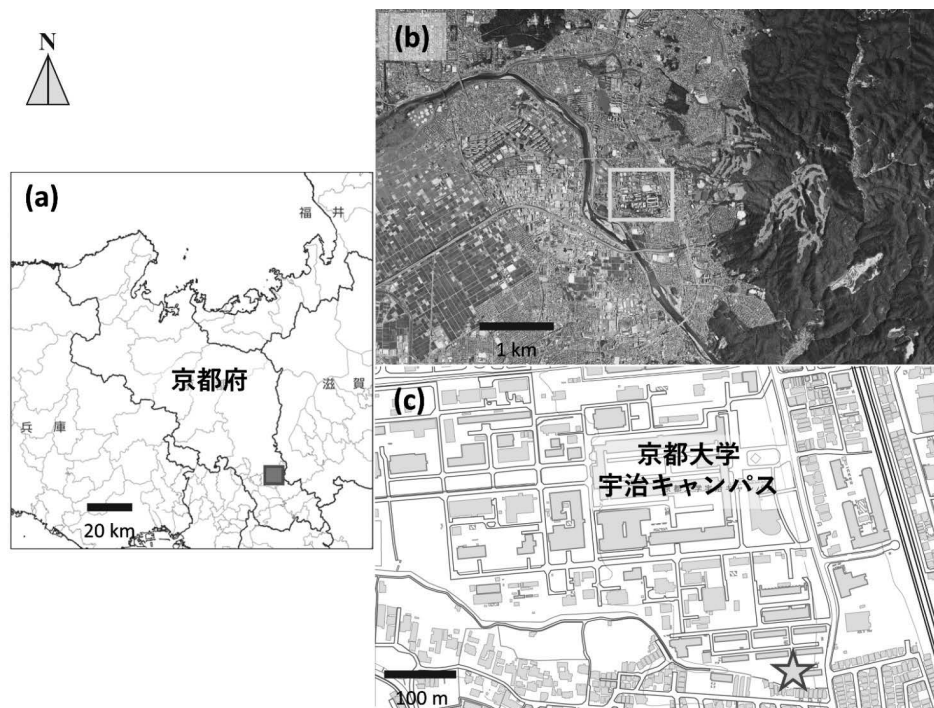


図1 フクロウ *Strix uralensis* の観察地点の位置と, その周辺環境. (a) 京都府の位置. 図内の四角形は宇治地域を示す. (b) 京都大学・宇治キャンパス (京都府宇治市) とその周辺地域. 図内の四角形は宇治キャンパスを示す. (c) 宇治キャンパスとその近隣. 図内の星型はフクロウが観察された地点を示す. いずれも, 国土地理院の地形図 (<https://www.gsi.go.jp/>) を元に作成.

Figure 1. The site where the Ural owl *Strix uralensis* was observed and its surrounding environment. (a) A map of Kyoto Prefecture, with the region of Uji highlighted by a square. (b) The location of the Uji campus of Kyoto University, highlighted by a square frame, along with the surrounding area in Uji city, Kyoto Prefecture. (c) Uji campus of Kyoto University and its adjacent neighborhoods. The star marks the location where the owl was observed. All the materials are based on the terrain maps of Geospatial Information Authority of Japan (<https://www.gsi.go.jp/>).

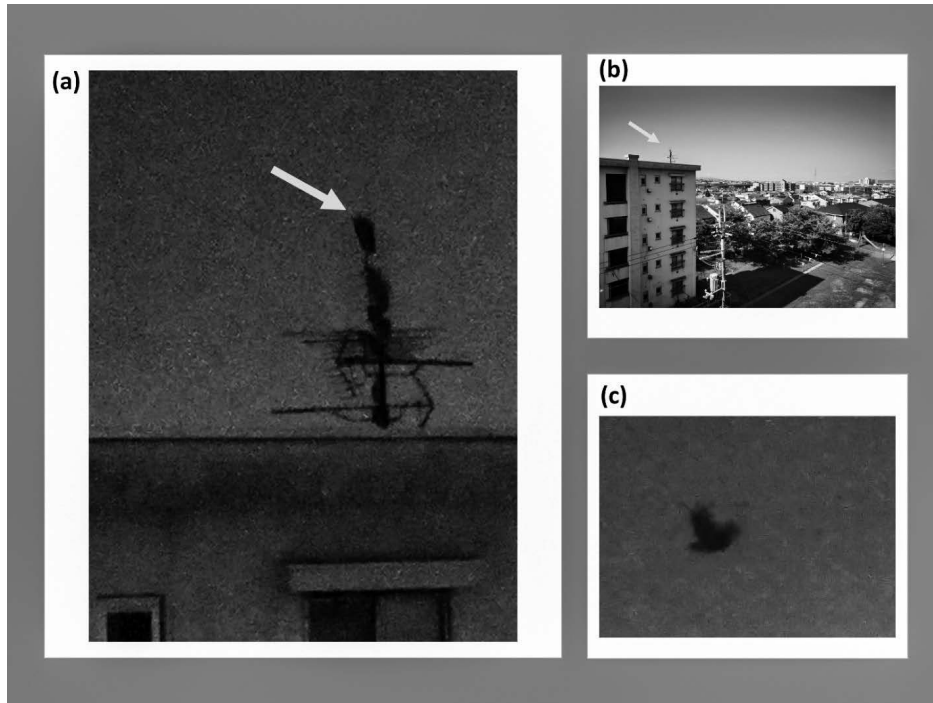


図2 2023年8月に京都大学・宇治キャンパス（京都府宇治市）で観察されたフクロウ *Strix uralensis* の個体と、観察地点の環境。(a) 建造物屋上のアンテナにパーチする（止まる）フクロウ。黄色の矢印はフクロウの位置を示す。(b) フクロウがパーチしていた位置と周辺環境（観察した当日、日中の風景）。黄色の矢印はフクロウが夜間にパーチしていた位置を示す。(c) アンテナから飛び去るフクロウの様子（註3の動画資料から切り取ったもの）。いずれも2023年8月21日撮影。

Figure 2. The Ural owl observed on the Uji Campus of Kyoto University (Uji City, Kyoto Prefecture) in August 2023, and the environment of the observed site. (a) The owl perching on an antenna of the building. (b) The position of the antenna where the owl was perching and a daytime view of its surrounding environment on the same day when the owl was observed. The yellow arrow indicates the position where the owl perched at night. (c) The owl flying away from the antenna (cropped from the video in Supplementary Material 3). All pictures were taken on August 21st, 2023.

判断した。また、本個体の声質は、太く通るようであった（註1および2）。フクロウは雌雄ともに鳴くが、雌は“少し濁ったボソボソした声”（叶内ら、2008）や“ギャーギャー”（日本野鳥の会京都支部、2023）といった声を発する。このことから、本個体は雄である可能性が高い。

3. おわりに

今回のフクロウの観察記録は、1996年から1997年に宇治キャンパスで行われた鳥類相調査の結果に新たな1種を追加するものである。市街地におけるフクロウの生息は、これまで香川県坂出市（野口・吉村、2001）や山梨県甲府市（内山ら、2014）で確認されている。これらはいずれも森林に隣接した市街地における報告であり、周囲の森林からの比較的距離の近い宇治市の市街地で観察されても不思議ではない。また、フクロウの行動圏はおよそ2~29 km²（山地、農耕地、河川敷、市街地を含む

長野県長野市の例；堀田ら、2002）と広いことから、宇治キャンパスだけでなく、周辺の森林や農地を利用している個体が立ち寄った可能性が考えられる。本種が宇治キャンパスを生息地の一部、もしくは移動の中継地として恒常的に利用しているのかを把握するため、今後の継続的な調査が求められる。

謝辞

本原稿を執筆するにあたり、福井市自然史博物館の出口翔大博士から有益な助言をいただいた。ここに御礼申し上げます。

引用文献

- 1) 堀田昌伸・前河正昭・滝沢和彦・細野哲夫（2002）飯綱高原における鳥類と土地利用：フクロウの移動から見えるも

- の。長野県自然保護研究所. 5: 71-76.
- 2) 叶内拓哉・安倍直哉・上田秀雄 (2008) 日本の野鳥. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
 - 3) 京都府環境部自然環境保全課 (2021) 京都府改訂版レッドリスト 2021 (哺乳類・鳥類). 2pp, 京都府環境部自然環境保全課, 京都.
 - 4) 京都府環境部自然環境保全課 (2015) 京都府レッドデータブック 2015WEB. https://www.pref.kyoto.jp/kankyo_red/sitemap.html
 - 5) 日本野鳥の会京都支部 (2023) 京都の野鳥一覧：フクロウ. <https://wbsj-kyoto.net/yachoulist/> フクロウ /
 - 6) 二村一男 (1989) 芦生演習林の鳥類相の季節変化. 京都大学農学部演習林集報 19: 1-16.
 - 7) 二村一男 (1993) 本部試験地の鳥類相. 京都大学農学部演習林集報 25: 1-10.
 - 8) 二村一男 (1994) 本部試験地の鳥類相の季節変化. 京都大学農学部演習林集報 26: 1-8.
 - 9) 二村一男 (1991) 上賀茂試験地の鳥類相. 京都大学農学部演習林集報 22: 1-12.
 - 10) 二村一男 (1997) 京都大学宇治構内の鳥類相. 演研 4: 45-49.
 - 11) 野口和恵・吉村正則 (2001) 香川県山本町におけるフクロウ *Strix uralensis* のペリット分析. 香川生物 28: 27-28.
 - 12) 内山未来・後藤渉・下岡ゆき子 (2014) 甲府市善光寺における野生フクロウの食性. 帝京科学大学紀要 10: 31-36.
 - 13) 渡辺弘之・二村一男 (1971) 芦生演習林の鳥類相. 京都大学農学部演習林報告 42: 1-15.
- 註 1. 建造物上のアンテナにパーチした (止まった) フクロウが鳴く様子 (動画資料). Supplementary Material 1: An owl perched on an antenna on a building hooting (media). 「Supplementary_Material1_VID_20230821_004307.mp4」. ※
- 註 2. フクロウの鳴き声と観察時の周辺環境 (動画資料). Supplementary Material 2: The call of the owl and the surrounding environment during observation (media). 「Supplementary_Material2_VID_20230821_004002.mp4」. ※
- 註 3. 建造物上のアンテナから飛び去るフクロウの様子 (動画資料). Supplementary Material 3: The sight of an owl flying away from an antenna on the building (media). 「Supplementary_Material3_VID_20230821_004606.mp4」. ※
- ※ いずれもオープンアクセスリポジトリ *figshare* (https://figshare.com/articles/media/Supplementary_Materials_for_Urban_sighting_of_the_Ural_owl_i_Strix_uralensis_i_at_Uji_Campus_of_Kyoto_University_Kyoto_western_Japan_Hisano_/24037140) より利用可能.